

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援室みらい 益城教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	見通しを持って主体的に行動できるようするためのプログラム構成	<ul style="list-style-type: none"> 日々のスケジュールや先の活動計画を利用者と共有し、次に何をするかを理解させることで、自主的に動く力を養う。ニーズに応じて個別の対応も行う。 一週間継続して同じ集団活動を行うことで、一貫した経験を積むことができ、成長が見えやすくなる。 良い点や努力が見られる点などに対しては、しっかりと称賛し、達成感を味わうことで、次の目標や活動に向けてのモチベーションを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に自己決定の機会を増やし、責任感と主体性を育てる活動を積極的に取り入れたい。 家庭との連携を強化し、保護者も一緒にサポートプランを理解し、実行できるようにしたい。 定期的なフィードバックセッションを設け、利用者が自分の行動や学びの進捗を振り返る機会の提供を強化したい。
2	刺激を最小限に抑えた環境	<ul style="list-style-type: none"> パーテーション等を使用し、個々のスペースが確保され、周囲からの視覚的な干渉を減らし、集中力を向上させる。 掲示物を最小限に抑えることで、必要に応じて掲示内容を更新しやすくなり、新しい情報や活動に柔軟に対応できる。 イラストやアイコンなどの指示カードを使用し、具体的な動作や行動を示すことで、利用者が視覚的に理解しやすくなる。また、利用者の集中力を途切れさせる原因となる不要な声掛けを減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室や活動スペースのデザインをシンプルに保ち、過剰な装飾を避けることで、視覚的な刺激を減らすことに継続して取り組む。 継続して教室や活動スペースを常に整理整頓し、すっきりとした環境を保つ。利用者にも整理整頓の習慣を身につけられるような取り組みを実施していきたい。 指示カードは、実施状況や利用者のニーズに応じて見直ししていきたい。
3	社会性や協調性を育むために他事業所と合同で運動やレクリエーション活動を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 新しい友達を作ったり、多様な価値観を学んだりすることができるように他事業所の利用者と交流する機会を設けている。 チームでの活動を通じて、協力や助け合いの重要性を実感する機会を設定している。 運動やレクリエーション活動を通じて、心身のリフレッシュが図れ、ストレスの発散にも繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がさまざまなスキルを学ぶ機会を増やせるように交流アクティビティの多様化を行いたい。 今後の活動に反映させられるように、活動の後にフィードバックセッションを設け、利用者がどのように感じたか、何を学んだかを共有する場を作ることを強化したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が広くないので、レイアウトの工夫が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が安全に過ごせるように動線を確保するために、机や椅子の出し入れが発生し、業務効率が落ちてしまう。 事業所内のスペースが限られているため、広く使う遊びをすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つのスペースを複数の目的で使用できるようにすることで、スペースの有効活用を図る。 必要な道具や教材を整理整頓しやすいように、収納スペースを確保する工夫が求められる。 事業所内だけでなく、近隣の公園や体育館などの外部施設を利用することで、限られたスペースを補う。
2	ありがたいことに、利用希望者の方が多いが、退会者も少なく、支援が必要と思われる子どもさん達にご利用いただけない事。	<ul style="list-style-type: none"> 早期療育の大切さを知っていただき、年齢が低い時から支援させていただける様に周知活動を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしく「できた」を重ねていき、自分のことが好きになる場所となれるように、『一人ひとりのきらりと光る個性を生かし、ありがとうの言葉と笑顔あふれる社会の実現に貢献』できるように、努めていく。
3	地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所として、地域のこどもに対しての活動との接点を作っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のこども対象事業と接点を作っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	子ども支援室みらい 益城教室		公表日 2026年 3月 27日				利用児童数 2026年 3月 6日 回収数 9	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9				〇活動内容によって、部屋が分かれている事は良い事ですし、スペースも適していると思われる。	今後も活動内容や子どもの特性に応じた環境設定を継続していきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9				〇それぞれ専門の方々が必要とされる人数いらっしゃるので適切である	今後も子どもの特性に応じた適切な職員配置に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7			2	〇よく見ていないので分からない	今後も見学時や説明の際に環境面についても分かりやすくお伝えしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9				〇清潔にされていると思う。玄関も常にきれい。	今後も子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに努めます。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8			1	〇親の勉強不足、、、よくわからない。	職員研修等を通して支援の質の向上に努めていきます。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8			1		
保 護 者 へ の 説 明 等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5		1	3		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9				〇行われているのは知っているが研修会などまだ参加した事がない。	今後も参加しやすい形の開催や情報提供に努めます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	9					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6			3	〇まだ1度も参加した事がないので分からない。	保護者交流やきょうだい支援については、今後も実施方法を検討しながら取り組んでいきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8			1	○すみません。見た事がなかったです。HP等で活動の様子を発信しています。今後も分かりやすい情報発信に努めていきます。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8			1	○まだそのような状況になったことがない為不明。	事故等が発生した場合には、速やかに保護者へ連絡し状況説明を行うなど体制を整えていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9				○「明日はみらいだよ」と教えると「ヤッター！」とみらい用のかばんを玄関前に置いて準備する程！	ありがとうございます。今後も子どもたちが楽しく通える活動を提供していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				○いつも本当にありがとうございます！	今後も子どもと保護者に寄り添った支援を行い、支援の質の向上に努めていきます。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	子ども支援室みらい 益城教室				公表日	2026年 3月 27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	○活動内容に応じてスペースを分け、安全面に配慮している。静と動の活動エリアを分け、落ち着ける環境を整えている。 ○平日は、児童発達支援と放デイの支援の時間帯を分けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	児童数や支援内容に応じて職員配置を行っている。	今後も子どもの特性や状況に応じた適切な配置を行い、安全で質の高い支援体制を整えていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	○視覚支援（掲示物・写真・マーク）を活用している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	○毎日の清掃や消毒を行っている。	○天井設置の冷暖房器具については定期的な点検があるといふ。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	○クールダウンスペースを設けている。パーテーションで環境調整をしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	2	○朝と昼にミーティングをしている。	今後も職員全体で業務改善の意識を高め、PDCAサイクルに基づいた支援の質の向上を図っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者アンケートを実施し、意見を把握する機会を設けています。今後も結果を職員間で共有し、業務改善につなげていきます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	○朝礼や昼礼で情報共有している。 ○昼礼も行い、パートへの伝達もされている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5		外部の研修や専門家からの助言等を活用し、支援の質向上につなげていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	○内部研修を定期的実施している。外部研修へ参加している。	○研修参加後の報告や情報共有の機会を設けると、職員間の知識・技術の共有を促進できると考える。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	支援プログラムを作成し、支援内容の共有を行っています。今後も適切な支援プログラムの運用に努めます。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	アセスメントを行い、子どもや保護者のニーズを踏まえた支援計画を作成しています。今後も丁寧なアセスメントを継続します。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	支援計画作成時には職員間で情報共有を行い、子どもの最善の利益を考慮した検討を行っています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	児童発達支援計画を職員間で共有し、計画に基づいた支援を行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	2	○希望されるご家庭には発達検査を実施している。 OKIDS乳幼児発達スケールを要約したみらい独自のアセスメント表をしようしている。	発達検査や日々の行動観察等を通して子どもの状況を把握している。今後も標準化されたアセスメントツールの活用を進め、より客観的な評価に努めていく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	児童発達支援ガイドラインに基づき、本人支援・家族支援・移行支援等の観点から支援内容を設定しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1		活動プログラムは職員間で相談しながら立案しています。今後もチーム支援を継続します。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	〇週ごとに変更している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別活動と集団活動を組み合わせた支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	〇職員間で役割分担を明確にしている。個別対応が必要な利用者には手厚くかわる体制を整えている。 〇送迎、学習担当の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	〇翌日の朝礼で振り返りを行っている。	今後も振り返りの機会を確保し、支援の質の向上につなげていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援記録を作成し、支援の検証と改善に活用しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的なモニタリングを実施し、必要に応じて支援計画の見直しを行っています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	8	0	サービス担当者会議等には子どもの状況を理解している職員が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	〇児童が通っている園と連携を行っている。	通園先の園や学校等と情報共有を行い、連携した支援を行っている。今後も関係機関との連携を強化し、子どもを中心とした支援体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	併行利用先との情報共有を行い、移行支援にも配慮しています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	就学に向けて学校等と情報共有を行い、円滑な移行支援を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	3		必要に応じて児童発達支援センター等から助言
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	8		〇現在は、円との交流等の機会は設けていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	〇送迎時や連絡帳、LINE等で日々の様子を共有している。 〇連絡帳やLINEなどにより、ご自宅、学校、来所持等の様子を情報共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	〇学習会等を行っている。 〇親子で参加できるイベントや学習会がある。	〇学習会やイベント等を通して保護者支援を行っています。今後も情報提供の機会を設けていきます。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に運営規程や支援内容について説明を行っています。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	支援計画作成時には保護者の意向を確認し、子どもの最善の利益を考慮しています。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	支援計画について保護者に説明し、同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	保護者からの相談に対応できる体制を整えています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	〇子育て学習会、親子レクリエーションなど 〇年に1回親子レクリエーションを実施。 (きょうだい児も参加可)	親子レクリエーション等を実施し、保護者交流の機会を設けています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	相談や申入れに迅速に対応できる体制を整えています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	通信やHP等で情報発信を行っています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報の適切な管理を行っています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	子どもや保護者との意思疎通に配慮しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5	〇地域住民も参加可能なマルシェを実施。	今後も地域とのつながりを大切に事業運営を行っていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各種マニュアルを整備し、周知と訓練を実施しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	BCPを策定し、避難訓練等を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	服薬や健康状況等の確認を行っています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1		アレルギーについて保護者へ確認し対応しています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1		安全計画を作成し、安全管理体制を整えています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1		安全計画の内容について保護者に周知しています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハットを共有し、再発防止に努めています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	〇年2回虐待防止等の研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	身体拘束については必要時の手続きを定め、保護者へ説明の上、支援計画に記載しています。		